

令和6年度 第1回地方創生推進会議 要録

日 時：令和6年11月26日（火） 19：00～20：40

場 所：郡上市役所本庁舎 4階大会議室

出席者：（委員）井俣 潤、大中 健児、出崎 善久、兼山 吉枝、熊崎 弘一、鈴木 和
喜、大江 裕之、浅見 和人、名畑 周、稲葉 光紀、恩田 邦生、置田 優
一

（事務局）河合室長、三島課長、木嶋課長補佐、田仲主任

欠席者：なし

傍聴者：なし

1. 開会

2. あいさつ・自己紹介

会長：あいさつ

各委員：自己紹介

事務局：自己紹介

3. 協議事項

（進行を出崎会長に交代）

会長：それでは「第2期郡上市まち・ひと・しごと創生総合戦略で設定したK P Iの
進捗状況について」事務局より説明を求める。

（説明）

事務局①、事務局②：（資料をもとに基本目標1から3を説明）

（意見等）

会長：基本目標1から3に関してご意見やご質問はないか。それぞれの立場からご意
見を伺いたい。

委員①：商工会では、ビジネスマッチング活動において、商工課と一緒にサポートする
ことで企業の出店を促しており、契約率は向上すると考える。また、廃業予定
者と事業承継希望者のマッチング件数は、体制構築が重要で、郡上市の取り組
みは高く評価されている。

会長：観光分野については、ホテルなどの観光アイテムが減少する一方で、観光客は増
加しているため、代替先の需要が高まっているが、施設規模の制約から機会損失
が発生している。他には、連盟が行う「TABITABI 郡上」では、SNSを通じて効果
を上げており、ネットによる情報発信の重要性が増している。

副会長：新規就農者については、少数精鋭で活動している。また、6次産業化を目指す女性
も増えているが、資金や年齢に対する不安の声もあるため、身近にレンタルキッチン
などの施設があるとハードルが下がると思う。

委員②：環境保全の整備については、境界確認に時間がかかり、進行が遅れている。木材生

産量では、枝葉も利用するようになったため、増加見込みであるが、再造林においては、獣害被害があるため進まないのが現状である。

会長：地域おこし協力隊の達成に関して事務局から補足等あるか。

事務局①：地域おこし協力隊の市内定着率は高く、任期後も市内で活動を続ける傾向にあり、他地域と比較しても高く評価されている。今後も8割以上の定着率を目指していく。他には、都市部住民の市内催事への関与については、東京で郡上に縁のある催しが企画されたことで、関係人口が増加すると期待している。また、郡上の逸品を扱う都市部の店舗数は、販路拡大に課題がある。都市部の事業者との関わりを通じ、販路開拓や地域の誇りの向上を図る。

会長：他に意見はないか。なければ事務局より続きの説明を求める。

会議：（意見なし）

事務局②：（資料を基に基本目標4から6を説明）

会長：基本目標4から6に関してご意見やご質問はないか。それぞれの立場からご意見を伺いたい。

委員③：インターネット通信速度100M以上への加入率は、インターネット加入者の半数以上がリモート会議等に不十分な速度の20Mコースを利用しており、今後の需要から加入率は上がると予想される。CATVの加入者数においては、減少傾向にある一方、インターネット利用者は増加傾向にある。4K・8Kテレビの普及率も増加傾向にあり、8Kテレビはチャンネルが限られ、普及は鈍化しているものの、4Kテレビの需要は今後も増加する見込みである。

委員④：災害に強いまちづくりにおいて、日常から災害に対する意識啓発を行い、資格取得への啓発活動も行っている。地域医療の確保・充実に関しては、通いの場（サロン）運営者の高齢化や賃借料、水道光熱費の負担など課題がある。地域の集いの場の拡充により今後の増加が期待される。生活支援活動を行う住民グループは、住民が自発的に支援を行う取り組みが進められ、介護サービスの隙間を埋めるためにより一層の取り組みが求められる。

委員⑤：サロン活動については、主に高齢者が参加するため、地域外への移動が難しい。サロン間の交流等の要望に応じて支援を行っている。

委員⑥：エネルギー関連については、脱炭素に向けて環境省の脱炭素先行地域に向けた提案書を提出したが落選した。今後は民間とも協力して進める意向である。

また、市内で木質バイオマス発電の計画があったが、諸事情により頓挫したことで現在は見直し中である。今後については、郡上市に適した補助金等を活用してエネルギー事業の推進を図る。

委員⑦：現在、ハローワークでは人手不足により、求人に対して求職者が下回る状況である。県が行うワークライフバランスのエクセレント企業認定は、求人活動を行う際に取得企業として広報できるため、認定の推進を期待する。

会長：求人の増加に伴い就職率も上がったように思うがどうか。

委員⑦：求人は多いが、求職者が少ない状況にある。登録者については、高齢化が進んでいる一方で、若者の求職者はオンラインの求人を上手く活用している。

委員⑧：スポーツ少年団への加入については、運動に対する態度が二極化している。様

々な教育活動を通じて運動を促進しているが、効果は表れていない。文部科学省が部活動を地域クラブに移行する方針を打ち出し、中学校では令和7年度中の移行を予定している。地域クラブは一部で既に活動を開始しているが、指導者の確保が大きな課題である。

委員⑨：高校においては、Good郡上プロジェクトや探究授業においてプラン提案はできるが、財源確保や出納責任者を要するため、学校単独でのプラン実現は難しく、外部のサポートが不可欠となる。他市では、高校と市が連携している例があるが、郡上の中でも高校生の提案を実現するため協力いただきたい。

委員⑩：郡上市の住宅着工数は減少しており、住宅買い控え傾向にある。また、郡上市産材を使用する家庭も少なく、建築業者による郡上市産材の活用促進が重要となる。加えて、円安や金利上昇の影響もあり、住宅ローンの支出が増加見込みである。今後は行政が郡上市産材の使用を促すことで、郡上市産材を使用した新築住宅の着工数を増やす可能性がある。

会長：他にご意見やご質問はないか。

会議：（意見なし）

会長：委員の皆さまからいただいたご意見については、事務局で取りまとめていただき、地方創生を推進していくための施策などに反映されるようご対応いただきたい

4. その他

（進行を事務局に交代）

事務局①：他に意見はあるか。

会議：（意見なし）

5. 閉会

（終了 20時40分）